様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 １２ 日現在

機関番号：４２６７６
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１８４８６

研究課題名（和文）英語テクストから見直す近代日本仏教像

研究課題名（英文）The Vision of Modern Japanese Buddhism Reviewed form English Tests

研究代表者
大平　栄子（Ohira, Eiko）

大妻女子大学短期大学部・英文科・教授

研究者番号：２０１６０６１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,800,000円

研究成果の概要（和文）：明治維新以降海外諸国との交流が活発化すると、仏教者や仏教研究者による日本紹介の英文著作が多数刊行され、それが欧米の日本理解に大きな影響を与えた。だが、従来の研究ではかかる大量の英文著の著作の刊行の意義が問われることはなかった。本研究ではこの研究の空白に挑戦し、以下のような成果を得るに至った。①明治維新から戦前までの期間に刊行された150点に及ぶ仏教者による英語のテクストを網羅的に収集し、その全体像を明らかにし英語テクスト大量刊行の歴史的意義を解明した。②その成果を既存の近代仏教研究とすり合わせることで、通説的な近代仏教像の書き換えと新たな視点からのアジア仏教への日本仏教の位置付けを試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
明治維新から戦前までの期間に刊行された仏教者による英語のテクストを網羅的に収集し、その全体像を解明した。また、その成果を既存の近代仏教研究と対比することによって、東アジアを視野に入れた広い視点から通説的な近代仏教像の書き換えを試みた。
とりわけ重要な成果は、従来仏教研究の対象となっていなかった岡倉天心の独自の意義の発見である。天心はインドの文学者ラビンドラナート・タゴールとの深い知的交流を通じて、タゴールの日本文化および大乗仏教理解を深化させ、タゴールと多くの日本人仏教者たちとの知的交流を促した。それは日本における仏教改革・近代化の潮流と深く交差しながら進展し、相互に大きな影響を与えた。

研究成果の概要（英文）：After the Meiji Restoration, when exchanges with foreign countries became more active, a large number of English-language works introducing Japan were published by Buddhists and Buddhist scholars, which had a great impact on Western understanding of Japan. However, the significance of the publication of such a large number of English-language works has not been questioned in conventional research. This study challenges this research gap and has produced the following results.(1) Comprehensively collected 150 English texts by Buddhist scholars published from the Meiji Restoration to the prewar period, and clarified the overall picture and the historical significance of the mass publication of English texts.By comparing the results with existing research on modern Buddhism, I attempted to completely rewrite the commonly accepted image of modern Buddhism and to position Japanese Buddhism in the context of Asian Buddhism from a new perspective.

研究分野：英語文学

キーワード：英語テクスト　近代仏教像

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

（1）本研究の研究代表者は、平成 24 年度から 26 年度にかけて、科学研究費補助金の支援を得て、タゴールの英語文学の独自性の解明と世界文学への位置づけを試みた。また、27 年度からは、同じく科研費を得て「日本英語文学」概念の構築を行った。

これら研究代表者の一連の研究は国際的な注目を集め、タゴール国際大学、インド文学アカデミー、インド文化省、イギリスタゴールセンター等が主催する国際学会・国際会議において招待講演を行った。また、タゴール研究論集、国際学会誌等の媒体に英文の招待論文を発表した。

（2）上記の研究遂行の過程で、 鳥本幾子教授（セント・ノーバータ大学)、Malashri Lal 教授, Harish Trivedi 教授、Sukrita P. Kumar 教授（デリー大学)、Sanjukta Dasgupta 教授（コルカタ大学)、Fakrul Alam 教授、 Niaz Zaman 名誉教授（ダッカ大学)、Alok Bhalla 教授（インド文学アカデミー評議委員)、Namita Gokhale 氏、Aruna Chakraborty 氏（作家、翻訳家)、Abdul R. Janmophamed 教授（カリフォルニア大学バークレー校)、Neeru Tandon 氏（*Illuminati* 編集者)、Blanka K. Caplcova 氏(チェコの翻訳家、タゴール研究家)、Bee Formentell 氏(フランスの翻訳家)ら海外の知己を得て、分野を超えた多彩な人脈を構築することができた。

（3)「英語文学」という視点から、日本とインドとの比較を視野に収めた今回の研究においては、これまで築き上げて来たこうした国際的なネットワークの活用を見込むことができた。

２．研究の目的

明治維新を経て海外諸国との交流が活発化すると、日本を紹介する多数の英文の著作が刊行され、それが欧米の日本理解に大きな影響を与えたが、それらの大半は仏教者・仏教研究者の手になるものであった。しかし、これまでの研究においては、これらの大量の英文著の著作の刊行の意義が問われることがなく、それを資料として用いた研究も皆無であった。こうした研究の空白に挑むべく、本研究は次の 4 点を明らかにすることを主要な目的とした。

(1)明治維新から戦前までの期間に刊行された仏教者による英語のテクストを網羅的に収集し、その全体像を明らかにすること。

(2)時代背景を視野に収めつつその分析を進めることによって、英語テクスト大量刊行の歴史的意義を解明すること。

(3)その成果を既存の近代仏教研究とすり合わせることによって、通説的な近代仏教像の全面的な書き換えを目指すこと。

(4) 近代においてはインドを始めとするアジアの諸地域でも仏教者による英語テクストが出版されている。それらを歴史的なコンテクストの中で比較考察することによって、英語テクストと言う視点からアジアの近代の共通性と多様性に光を当てるとともに、アジア仏教

への日本仏教の位置付けを試みること。

３．研究方法

今回の研究遂行にあたっての手順と方法は、以下の通りである。

(1)屋内外における現地調査などにより仏教に関連する英語テクストの網羅的収集を行い、その全体像の総体的・立体的把握を試みる。

(2)その作業を踏まえて、近代における大量の英語テクスト出現の歴史的意義を解明する。

(3)厳格なテクスト批判とそれにもとづく近代仏教像の書き換えを行う。

(4)研究を進めるにあたって、日本仏教の代表的研究者である東北大学の佐藤弘夫教授に分担者として参加いただき、共同で研究を遂行する。佐藤教授の協力を得て、近代日本仏教に関する情報を収集し、研究成果を国内の関連学会誌において発表する。

(5)これまでネットワークを築いてきた欧米やインドなど海外の研究者との連携を重視し、研究成果は国際的に通用するものとすべく、海外の主要学会においても積極的に発表する。

4. 研究の成果

(1)本研究において、明治維新から戦前までの期間に刊行された仏教者による英語のテクストを網羅的に収集するとともに、その全体像を明らかにすることができた。

明治・大正・昭和初期（第二次世界大戦まで）において、英語の著作がある仏教者・仏教研究者は鈴木大拙、岡倉天心、赤松連城、姉崎正治、南条文雄、高楠順次郎、平井金三、石橋湛山、今村恵猛、清沢満之、暁烏敏、千崎如幻、佐々木指月、釈宗演、荻原雲来を始めとし、50 名以上にのぼることが関連文献の網羅的調査によって判明した。この時期に盛り上がった仏教の改革・普及を担った英文雑誌、*The Far East* (日本人初の英文雑誌 1896－98)、*The Light of Dharma*　（1901 年、サンフランシスコ、本願寺派）、*Young East* (1925- The 高楠順次郎創刊、仏教文化交流協会)、 *Eastern Buddhist*　（大谷大学 Eastern Buddhist Society 1921 年、鈴木大拙、*The Bijou Asia*（1888 年、浄土宗本願寺派、普通教校海外宣教会）への寄稿も活発化する。それ以外にも、この時期に 150 冊以上の英文著作が仏教者たちによって刊行されていたことを明らかにした。

(2) 時代背景を視野に収めつつ、上記の文献の分析を進めることによって、英語テクスト大量刊行の歴史的意義を解明した。

この時期の緊迫した時代背景には、日本の大乗仏教に対する内外からの批判があり、仏教改革・復興運動にかかわった人々は仏教擁護の論陣を張る必要性を痛感していた。西洋文化摂取への熱意をもって海外渡航した者の中には仏教者が多かったが、その背景には明治初年に起きた仏教の危機があり、それへの対応としての仏教の近代化への強い意欲と、近代ナショナリズムと関わるキリスト教への対抗意識があった。廃仏毀釈などを経て危機感を共有するに至った日本の仏教界は、近代社会における仏教の存在意義を明確化するためにも、西

洋哲学やキリスト教に対抗できる仏教の合理化を急務と考え、その準備作業として、海外渡航によって西欧の近代仏教研究を摂取しようと努めた。
仏教に対するヨーロッパ知識階級の怖れから生まれた否定的イメージ転覆の試みは、これらの英語文学作者たちによって活発になされた。その代表者の一人である鈴木大拙は、最晩年に至るまで、キリスト教世界は東洋の宗教に対し無理解であるという感慨と、日本の仏教（大乗仏教）が「世界のためになる」という信念、日本の仏教をキリスト教世界に伝えたいという熱意を持ち続けた。そうした彼の使命感は、30 冊にものぼる英文著作として結実することになった。
(3)以上の成果を既存の近代仏教研究とする合わせることによって、通説的な近代仏教像の書き換えを試みた。
　明治・大正・昭和初期における英語著作や英語での講演を通して大乗仏教の存在意義を発信し続けた多くの仏教者・仏教研究者たちが、近代仏教研究対象になっているなかで、仏教者としての岡倉天心は研究の視野には入ってこなかった。天心は天台密教の修業をする「信士」であり、真言宗室生寺の管長の勧めで仏教復興運動のための「真言実行院」を経済的に支援し、1893 年シカゴで開催された宗教会議に触発され「東洋宗教会議」を日本で開催するためにインドの宗教家スワミ・ヴィヴェーカナンダを訪ね、あるいはブッダガヤに日本人巡礼者たちのための宿泊所建設用地取得のために奔走した。インドで出会ったラビンドラナート・タゴールとの友情はタゴールの日本文化および大乗仏教理解を深化させ、タゴールと多くの日本人仏教者たちとの知的交流を促進し、それは日本における仏教改革・近代化の潮流と深く交差しながら進展して、相互に大きな影響力を発揮した。
　こうした岡倉天心の試みが、他の仏教者たちとは次元の異なる独自の文学的表象力によってより、日本仏教理解を促す上でより大きな効果を生み出していることを、彼の代表的な *The Book of Tea* や *The Ideal of the East* のみならず、最晩年のオペラ台本“The White Fox”（仏教劇）を分析することで明らかにすることができた。西洋起源の近代仏教が中心的に論じてきた「涅槃」の概念は「魂」の消滅という誤解を生み、仏教を敵視する風潮を生んだ。天心のオペラ台本は「愛の涅槃」と「自然説法」を詩的に表象し、密教の神髄を効果的に伝えており、この否定的概念への対抗言説として高い表象力を発揮していることを論じた。
近代仏教研究をリードしていた欧米諸国のみならず日本においても大乗仏教批判が興る中、大乗仏教の中でも密教への風当たりが一気に強まった。「密教は非合理的、呪術的、迷信的で前近代の日本の悪いところを代表」するもの「宗教の堕落した存在形態」とする反密教観が広まった。深い仏教理念を卓越した文学的表象力で劇化した天心の仏教文学は、明治期における反密教観に対する強力な対抗的言説として見直され、多彩な文化的翻訳を通して流通・交渉・読解がなされるべきテクストであることを明らかにした。
現在、世界で「仏教」と言った場合、チベット密教、日本の禅、テーラワーダ仏教が主流であり、禅以外では日本の仏教は無視されつづけている。明治以降のこのような風潮の中で、「自他不二」の境地を男女の「愛の涅槃」として描く岡倉の“The White Fox”がボストンで

上演されようとしていたという現実や、南方熊楠の南方曼荼羅、真言宗の土宜法龍のシカゴ会議への積極的参加、フェノロサやビゲローなど天台宗への帰依、小泉八雲の密教への肯定的観察などの視点から、否定的密教観の実態を見直す必要があることを論じた。
(3) 近代においてはインドを始めとするアジアの諸地域でも仏教者による英語テクストが出版されている。それらを歴史的なコンテクストの中で比較考察することによって、英語テクストと言う視点からアジアの近代の共通性と多様性に光を当てるとともに、アジア仏教への日本仏教の位置付けを試みた。

この時期、古典文献の分析に焦点化した西洋的仏教解釈の影響を受け、大乗仏教は「堕落」したもの、理性を欠如した東洋人、といったイメージが作り上げられた状況下で復興活動は展開された。1893 年シカゴ宗教会議にヒンドゥー教の代表として出席したインドの宗教家スワミ・ヴィヴェーカーナンダは多様な宗派の教義の違いを尊重し、それらが真理に到達するための異なる道であるとして普遍宗教を提唱し世界的注目をあび、日本仏教者にも大きな影響を与えた。タゴールと姉崎正治をはじめとする日本の多くの仏教者たちとの交流も活発に行われた。このような世界的潮流を背景とした国際交流の中で日本近代仏教は鍛えられ形成されていったことが確認された。仏教は厭世的、消極的、否定的という受け止め方が優勢だった時期に、キリスト教の優位性を前提にして始まったシカゴ宗教会議における日本側の代表者たちの切迫した動機の一つは不平等条約の解消であり、それと密接な関わりを持つもう一つの動機は、日本の仏教（＝大乗仏教）、すなわち日本文化・文明の根底をなすものが、いかに世界の平和・秩序・モラル形成に貢献できるかを主張することであった。

この時期、日本以外においても、タイ、ミャンマー、ラオスやインドにおいて仏教復興運動が活発化するが、日本のような大量の英語著作はいずれの国においても見られなかったことを現地調査において確認できた。その背景などについては今後の課題としたい。
日本仏教界への多大な影響力をもつタゴールは「仏陀」について多くの英語のエッセイを発表し、釈宗演、姉崎正治、および鈴木大拙の見解を、自身が創立したタゴール学園の宗教講話において紹介しているが、インドにおいては仏教、なかでも大乗仏教擁護者としてのタゴールに光が当てられることは皆無であった。一方、日本においては新聞雑誌等にタゴールおよびタゴール関連記事は大量に発行されている。日本人仏教者たちとタゴールの知的交流の意義についても本格的な研究がなされてこなかった。タゴールは天心との友情を通して、堀至徳、織田得能と親交を結び、河口慧海、鈴木大拙、釈宗演、姉崎正治、高楠順次郎、井上哲次郎、片山敏彦、大倉邦彦、大谷光瑞、木村日記、大宮孝潤、尾崎喜八、釈雲照をはじめとする日本の仏教者たちとの交流も活発に行われた。神智学協会や大菩提会との親交が深く、帰一協会の成瀬仁蔵とも親交があったタゴールは日本仏教の近代化、世界宗教としての仏教形成に影響を与え、またタゴールも彼らの英語著作や講演などからの影響により大乗仏教理解を深めたことがわかったが、これら双方向的影響関係についての調査と研究は今後の課題である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 大平栄子	４．巻 26
２．論文標題 タゴールの仏教文学と日本人仏教者たちの交差	５．発行年 2022年
３．雑誌名 都留文科大学院研究紀要	６．最初と最後の頁 121-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐藤弘夫	４．巻 -
２．論文標題 神・天皇・非人ー日本列島における差別の発生と深化の構造	５．発行年 2021年
３．雑誌名 差別の構造と国民国家	６．最初と最後の頁 59-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Eiko Ohira	４．巻 7
２．論文標題 Bapsi Sidhwa’s Water: A Novel: The Widows in Subjugation, Revolt, and Jouissance”	５．発行年 2020年
３．雑誌名 The Kyoto Conference on Arts, Media & Culture (KAMC2020 Proceedings	６．最初と最後の頁 56-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 大平栄子	４．巻 ５集
２．論文標題 ２．「Rabindranath Tagore と仏教―ブラフマンへの献身と仏陀の教えとの融合」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『都留文科大学大学院研究紀要』	６．最初と最後の頁 73-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤弘夫	4．巻 65
2．論文標題 彼岸への階梯ー『陸奥国骨寺村絵図』のコスモロジー	5．発行年 2020年
3．雑誌名 中世文学	6．最初と最後の頁 44-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤弘夫	4．巻 4
2．論文標題 祖霊は山に住むかー「日本人と神」再考	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ひらく	6．最初と最後の頁 54-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Eiko Ohira	4．巻 18
2．論文標題 “Lafcadio Hearn’s Essays on Japanese Buddhism and Buddhist Popular Culture in Comparison with Okakura Tenshin’s The White Fox, a Dramatization of a Folktale in the Context of Higher Buddhism”	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Hawaii International Conference on Arts and Humanities Proceedings 18	6．最初と最後の頁 30-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 大平栄子	4．巻 24集
2．論文標題 日本近代仏教批判への対抗言説ー岡倉天心のThe White Fox」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 都留文科大学文学研究紀要	6．最初と最後の頁 111-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 佐藤弘夫	4．巻 単行本
2．論文標題 現人神の誕生ー近代天皇の宗教的権威	5．発行年 2020年
3．雑誌名 私の天皇論	6．最初と最後の頁 269-292
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Sato Hiroo	4．巻 74
2．論文標題 死者たちの語らい（チェコ語）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Novy Orient	6．最初と最後の頁 32-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 佐藤弘夫	4．巻 51
2．論文標題 「陸奥国骨寺村絵図」のコスモロジー	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本思想史研究	6．最初と最後の頁 3-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 SATO Hiroo	4．巻 Bloomsbury
2．論文標題 The Dead Who Remain:Spirits and Changing Views of the Afterlife	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Spirits and Animism in Contemporary Japan	6．最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤弘夫	4．巻 25
2．論文標題 仏の消えた浄土ー日蓮と近代法華仏教の距離	5．発行年 2018年
3．雑誌名 近代仏教	6．最初と最後の頁 38-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤弘夫	4．巻 ぺりかん社
2．論文標題 死者たちの団欒ー彼岸で再開する人々	5．発行年 2018年
3．雑誌名 《生者/死者〉論	6．最初と最後の頁 183-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計17件（うち招待講演　10件／うち国際学会　13件）

1．発表者名 Eiko Ohira,
2．発表標題 Rabindranath Tagore and Mahayana Buddhism
3．学会等名 Sahtya Akademi, India（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 Eiko Ohira
2．発表標題 Rabindranath Tagore's "Chandalika": a Buddhist Drama
3．学会等名 The IAFOR International Conference on Arts and Humanities in Hawaii（国際学会）
4．発表年 2022年

１．発表者名 大平栄子
２．発表標題 岡倉天心のThe White Fox－伝説から仏教文学へ
３．学会等名 西日本宗教学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 佐藤弘夫
２．発表標題 神・仏・天皇―聖なるものの系譜
３．学会等名 大阪大学グローバル日本学教育研究拠点・国際日本研究コンソーシアム共催ワークショップ
４．発表年 2021年

１．発表者名 Eiko Ohira
２．発表標題 Bapsi Sidhwa’s Water: A Novel: The Widows in Subjugation, Revolt, and Jouissance”
３．学会等名 The Kyoto Conference on Arts, Media & Culture (KAMC2020)オンライン学会（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 佐藤弘夫
２．発表標題 追放された神々 文明史からみる〈ポスト３・１１〉
３．学会等名 退渓学釜山研究院主催・退渓学国際学術大会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Hiroo Sato
２．発表標題 The Proliferation of Living Gods and the Birth of Sacred Tenno
３．学会等名 The 6th Annual Hasekura International Japanese Studies Symposium　Yonaoshi: Envisioning a Better World（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 大平栄子
２．発表標題 “Lafcadio Hearn’s Essays on Japanese Buddhism and Buddhist Popular Culture　in Comparison with Okakura Tenshin’s The White Fox, a Dramatization of a Folktale in the Context of Higher Buddhism”
３．学会等名 Hawaii International Conference on Arts and Humanities（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 大平栄子
２．発表標題 「賤民の娘と堕ちた修行僧の物語―Rabindranath Ragore’s Chandalika」
３．学会等名 西日本宗教学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Sato Hiroo
２．発表標題 The Watchful Gaze of the Dead
３．学会等名 Hasekura League Symposium（ボローニャ大学）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤弘夫
２．発表標題 彼岸への階梯ー「陸奥国骨寺村絵図」のコスモロジー
３．学会等名 中世文学会2109年度秋季大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 SATO Hiroo
２．発表標題 The Watchful Gaze of the Dead－ Catastrophe and Salvation in Japan
３．学会等名 Eight Years On: Scholars’ Efforts to Reclaim Culture since the Great East Japan Earthquake (Oriental Institute of the Czech Academy of Sciences)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤弘夫
２．発表標題 現人神の誕生
３．学会等名 国際シンポジウム：天皇制と日本(北京日本学研究センター）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sato Hiroo
２．発表標題 The Chatting Dead: The Changing Concept of the World After Death in Japan
３．学会等名 The 2nd Indonesia- Japan Scientific Forum International Symposium on Japanese Studies（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 OHIRA Eiko
２．発表標題 The White Fox as a Work of World Literature
３．学会等名 Hawaii International Conference on Arts & Humanities2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤弘夫
２．発表標題 幽霊の発生ー日本のホラー文化の水脈を探る
３．学会等名 山東大学日本学研究フォーラム（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 SATO Hiroo
２．発表標題 The Chatting Dead: The Changing Concept of the World after Death
３．学会等名 ベネツィア大学国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計4件

１．著者名 佐藤弘夫	４．発行年 2021年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 266
３．書名 日本人と神	

1．著者名 佐藤弘夫	4．発行年 2020年
2．出版社 山喜房仏書林	5．総ページ数 793
3．書名 仏教思想の展開（担当：『立正安国論』の近代ー二つの「立正安国」の論理とそのゆくえ）	

1．著者名 佐藤弘夫	4．発行年 2020年
2．出版社 法蔵館	5．総ページ数 306
3．書名 アマテラスの変貌（法蔵館文庫）	

1．著者名 佐藤弘夫	4．発行年 2018年
2．出版社 講談社学術文庫	5．総ページ数 228
3．書名 「神国」日本	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	佐藤　弘夫 (SATO HIROO) (30125570)	東北大学・文学研究科・名誉教授 (11301)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関